

こども

# 子供のインターネットバイブル

あんない

案内いたします



おう

かしこい王さま、  
ソロモン



ぶん  
文: Edward Hughes

え  
絵: Lazarus

かいさくしゃ  
改作者: Ruth Klassen

ほんやくしゃ  
翻訳者: Yuko Kajiki 監修者: Dan Ellrick

しゅっぱんしゃ  
出版社: Bible for Children

[www.M1914.org](http://www.M1914.org)

©2010 Bible for Children, Inc.

きよか たにん う かぎ はなし  
許可: 他人に売らない限り このお話のコピー、  
また きよか  
又はプリントは、許可されています。



おう  
ダビデ王は、神さまのととてもよいしもべでした。

おう  
ダビデが王さまのあいだ、イスラエルの国は、  
くに

おお  
どんどん大き  
くなってい  
きました。



おう  
サウルが王さまだったときの10倍にもなったので  
すよ。けれどもダビデは、もう長く王さまでい  
ることは、  
できないよ  
うです。



とし  
もうすっかり年をとってしまいましたからね。

つかれてしまったのです。しかも、<sup>びょうき</sup>病気になってしま

いました。  
ダビデの  
<sup>いのち</sup>命は、  
もうそろそ  
<sup>お</sup>ろ終わりそ  
うです。





ダビデには、  
たくさんのむすこがあ  
な  
りました。その中のひとり  
アドニヤは、イスラエル  
ひとびと い  
の人々にこう言いました。  
いま  
「今はもう、わたしがこ  
おう  
この王なのだ。」と。





な  
アドニヤという名は、  
しゅ かみ  
「わたしの主は、神」  
い み  
という意味ですが、

かみ  
かれは神さまのよいしもべではあ  
りませんでした。アドニヤは、

おう とし  
お父さんダビデ王が年をとり  
よわ

弱くなっているとわかり、  
じぶん つよ  
自分のほうが強くなっ

おも  
たと思いました。





じぶん おう

そこで自分が王に  
なろうとしたのです。

かみ

でもね、神さまは、  
ちゃんとほかのことを、

けいかく

計画していらっしゃいました。



ダビデのおくさんバテシバは、

じょ

かの女のむすこソロモンが、

おう

しん

つぎの王になると信

じていました。そこで、

バテシバはダビデに、

わる

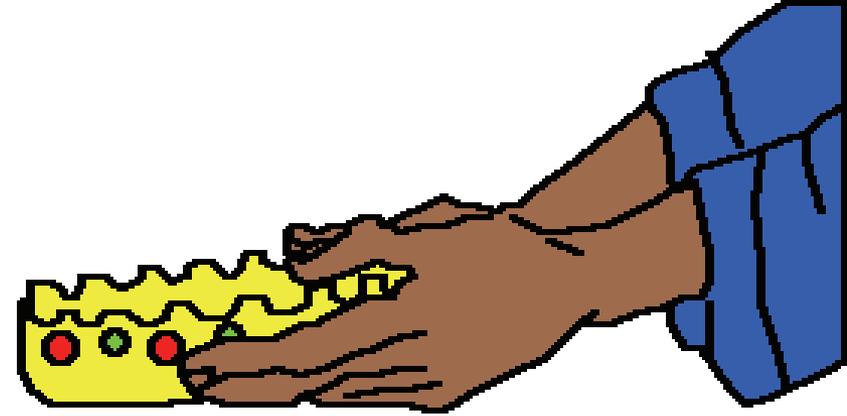
けいかく

アドニヤの悪い計画

はな

を話しましたよ。

するとどうでしょう。



びょうき

病気のダビデは、

た あ

すぐに立ち上がり、

くに

国のリーダーた

ちをあつめました。

くに ひとびと

そしてこの国の人々み

い

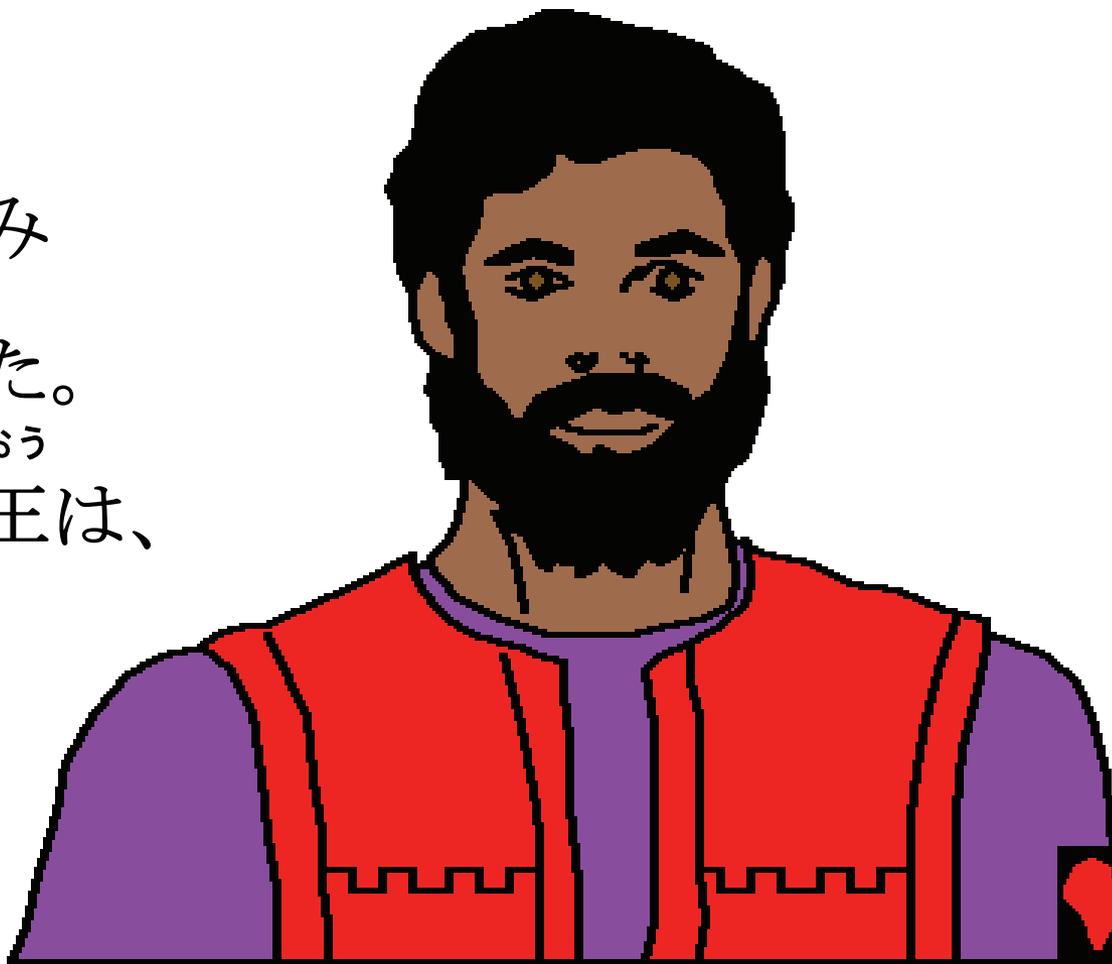
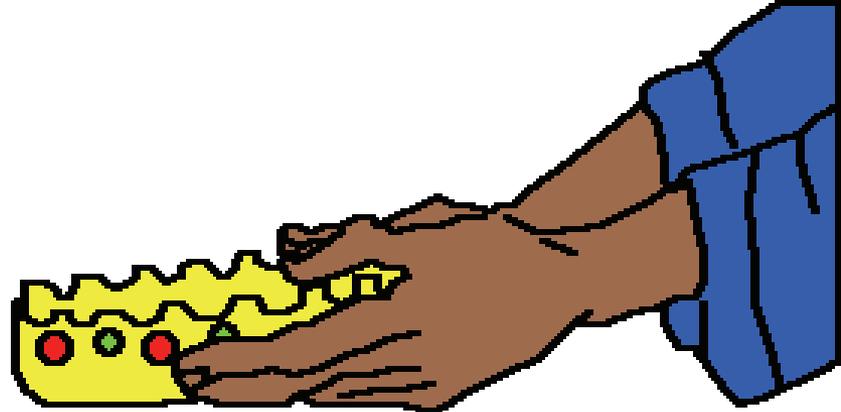
んなにこう言いました。

つき

おう

「次のイスラエルの王は、

ソロモンである。」



ひとびと だいす  
イスラエルの人々は、みんなダビデが大好きです。  
い ただ しん  
かれの言うことは、正しいと信じました。  
おう  
ですからソロモンは、どちらが王になるかで、  
あらす  
もうアドニヤと争うことはありませんでした。



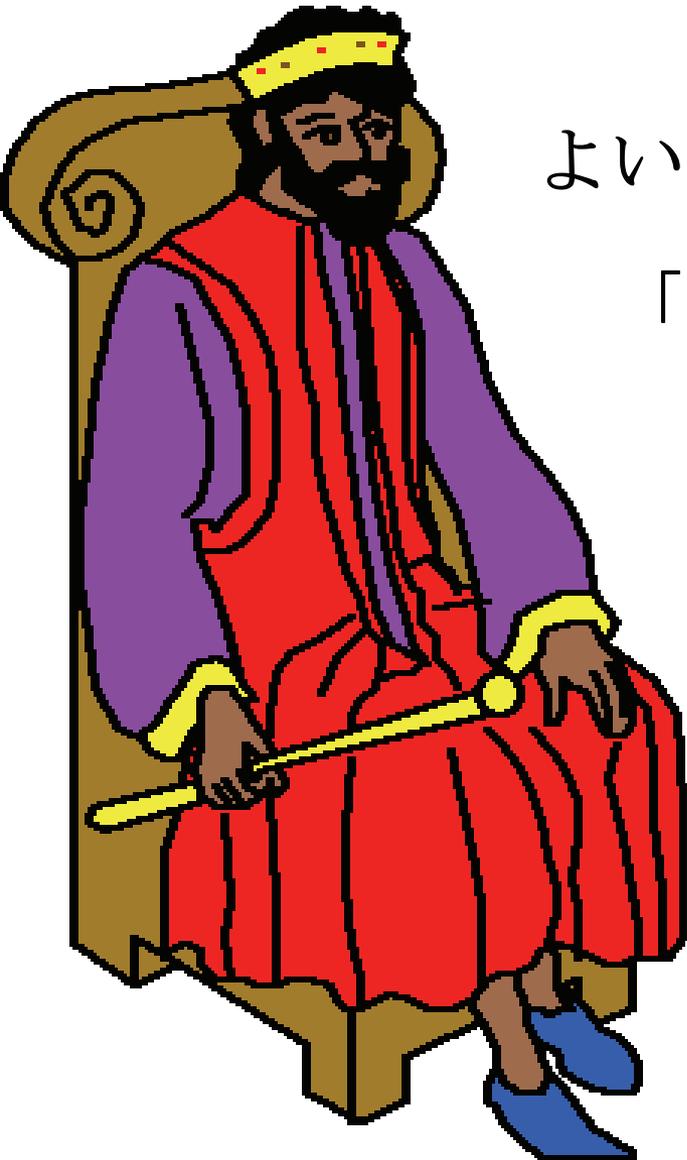
ダビデは、「ソロモン、神さまがおまえ  
をイスラエルの王にえらばれたのだよ。」  
と言いました。こう言ったすぐあとで、  
ダビデはとうとう亡くなってしまいました。



な  
ダビデが亡くなるまえ、かれはソロモンに、  
かみ  
神さまにしたがうことと、

おう  
よい王さまでいることをおしえました。

かみ  
「ソロモン、いつも神さまにしたがっ  
い  
て生きていくんだよ。そうすれば、  
おまえのすることは、  
みんなうまくいくからね。」





い  
ダビデの言ったことは、  
たいせつ  
わたくしたちにも大切なことですね。

こうしてソロモンは、  
とう  
お父さんダビデにつづいて、  
おう  
王さまになりました。

おうこく  
ソロモンの王国は、  
おお  
だんだんつよく大きくな  
っていきましたよ。



よる み  
ある夜のことで、ソロモンはゆめを見ました。

なか かみ  
ゆめの中で、神さまがあらわ

い  
れて言われました。

「ソロモンよ、  
い  
言ってみなさい。わたしは、

なに  
あなたに何を  
あたえよう。  
あなたは、

なに  
わたしに何が  
ほしいのか。」



ソロモンのこたえは、こうでした。

かみ

おう

「神さま、わたしがよい王さま  
まになれますように、  
あなたの知恵を  
ください。」



なに ただ なに  
何が正しく何がまちがっている  
かわかりますように。」

かみ  
神さまは、  
ソロモンの  
こたえを、  
たいそうよ  
ろこばれま  
した。



かみ

ちえ

そして、ソロモンはのぞんだとおり、神さまから知恵

をいただきましたよ。

でもね、それだけで

はありません。

そのほかに、

たくさん

の宝も、

ひとびと

また人々が

かれを信じ、

したがうよう

にもしてくだ

さったのです。



たみ

おう

イスラエルの民は、ソロモンがほんとうにかしこい王  
さまであることは、すぐにおわかりましたよ。

ひ ふたり かあ ひとり あか

ある日、2人のお母さんが1人の赤  
ちゃんをつれてやってきました。

ひとり かあ

1人のお母さんが、

ひとり かあ

もう1人のお母さんをゆびさし

い おう

て言いました。「王さま、

ひと あか

この人の赤ちゃんは、

よなか し

夜中に死んでしま

ったのです。



それで、わたしの生きて<sup>い</sup>いる赤<sup>あか</sup>ちゃんを取<sup>と</sup>って、  
自分<sup>じぶん</sup>の死<sup>し</sup>んでしま<sup>あか</sup>った赤<sup>あか</sup>ちゃん<sup>と</sup>と取<sup>と</sup>  
りか<sup>あ</sup>えてしま<sup>あ</sup>ったん<sup>い</sup>です。」



すると、もう1人<sup>ひとり</sup>が言<sup>い</sup>いました。  
「いいえ、そう<sup>あか</sup>ではあり<sup>い</sup>ません。」

この生<sup>い</sup>きてい<sup>あか</sup>る赤<sup>あか</sup>ちゃん<sup>こ</sup>は、  
ほん<sup>こ</sup>とう<sup>こ</sup>のわた<sup>こ</sup>しの子<sup>こ</sup>です。」

は<sup>おう</sup>てさ<sup>おう</sup>て、ソ<sup>おう</sup>ロ<sup>おう</sup>モン<sup>おう</sup>王<sup>おう</sup>は、  
ど<sup>おう</sup>う<sup>おう</sup>す<sup>おう</sup>る<sup>おう</sup>の<sup>おう</sup>で<sup>おう</sup>し<sup>おう</sup>ょ<sup>おう</sup>う。

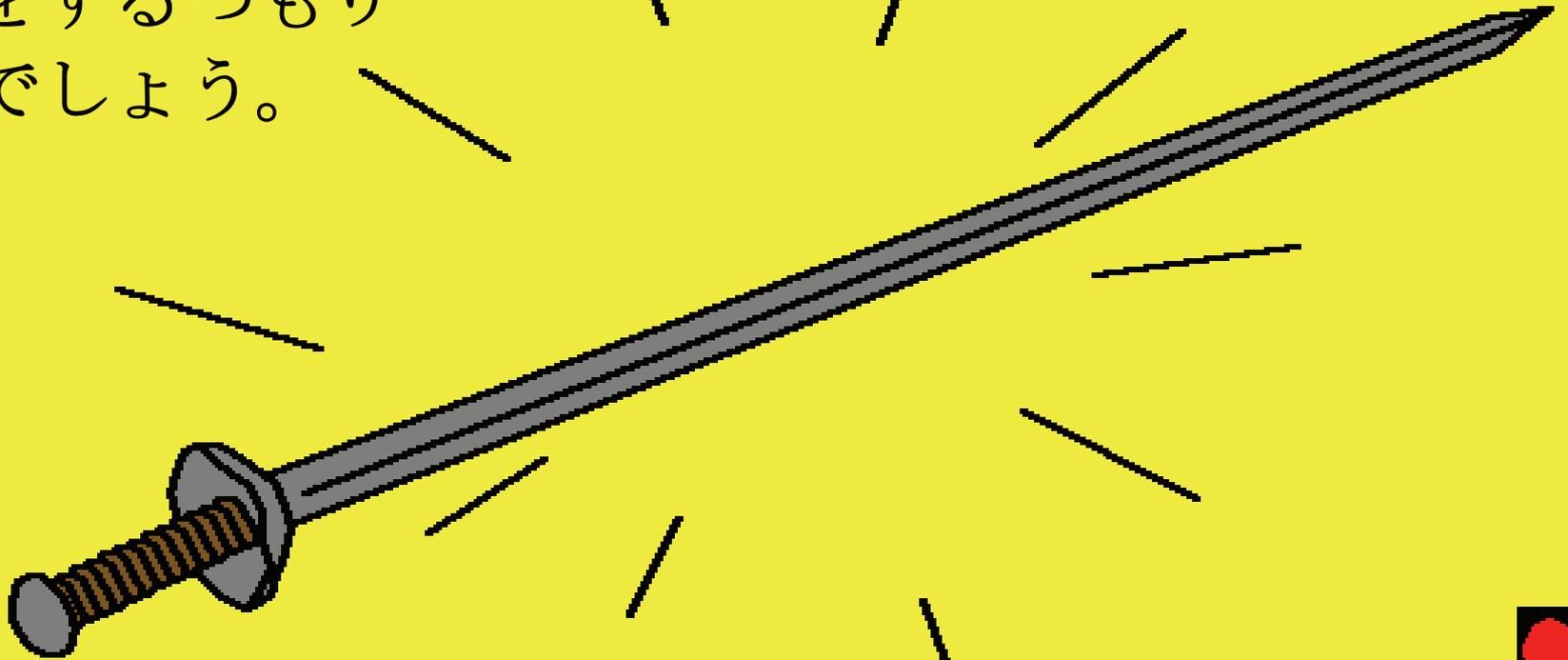
い<sup>おう</sup>っ<sup>おう</sup>た<sup>おう</sup>い<sup>おう</sup>ど<sup>おう</sup>ち<sup>おう</sup>ら<sup>おう</sup>が、

ほん<sup>かあ</sup>とう<sup>かあ</sup>のお<sup>かあ</sup>母<sup>かあ</sup>さん<sup>かあ</sup>？



ソロモン王は言いました。「ここに、わたしのつるぎ  
をもってきなさい。」そこで、かれらは、王さまのつ  
るぎをもってきましたよ。さて、みなさん、いったい

ソロモン王は、つるぎ  
で何をするつもり  
なのでしょう。



それから、王さまは言いました。「さあ、  
その生きている子を、このつるぎで2つに切って  
しまいなさい。その半分は、1人のお母さん、

そしてあと半分は、  
もう1人のお母さん  
にあたえよう。」



すると、1人のお母さんは叫んでいました。  
「いいえ、それはやめてください。生きている子は、  
かの女にわたしてください。

子どもをころさないで！」





けれども、  
ひとり かあ  
もう 1 人のお母さんは、  
い  
こう言ったのです。





こ  
「この子を、わたしのものでも、  
あなたのものでもないように、  
き わ  
つるぎで切って分けまし  
よう。」



そこで、<sup>おう</sup>王さまは<sup>い</sup>言いました。

「<sup>い</sup>その<sup>こ</sup>生きて<sup>い</sup>いる<sup>こ</sup>子を、  
<sup>おんな</sup>はじめの<sup>ひと</sup>女の<sup>ひと</sup>人に<sup>ひと</sup>わたしなさい。

<sup>ひと</sup>その<sup>ひと</sup>人が、

<sup>かあ</sup>ほんとうの<sup>かあ</sup>お母<sup>かあ</sup>さんです。」





はなし き  
さて、この話を聞いたイスラエル  
ひとびと おも  
の人々は、みんな思いました。  
おう  
ソロモン王は、なんてえらい  
かみ  
のだらうって。神さまが、  
ち え あた  
ソロモンに知恵を与えられ、  
たす  
いつも助けてくださっ  
ているんですね。



ひとびと

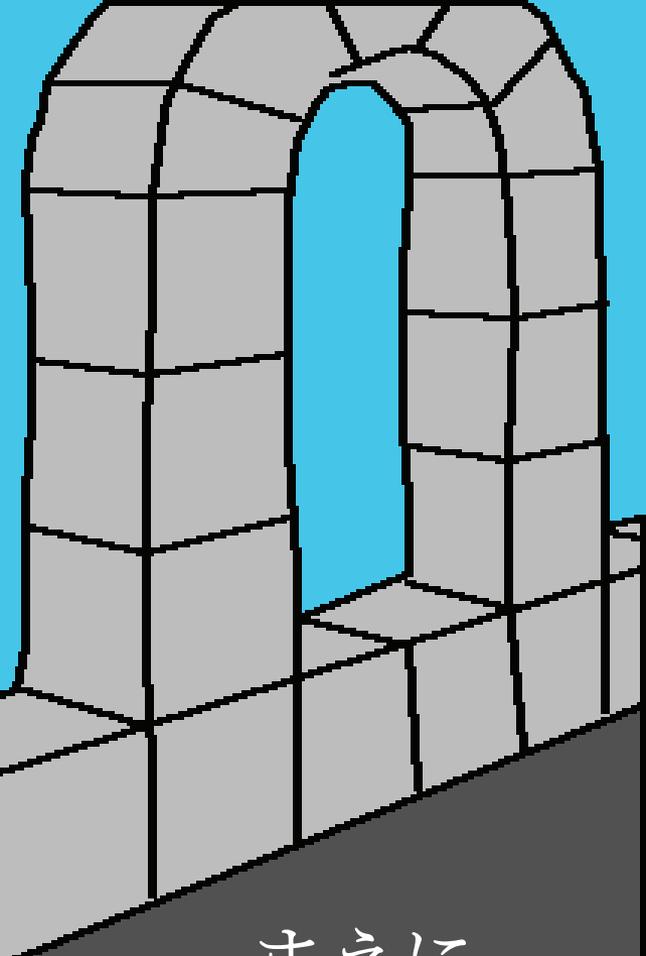
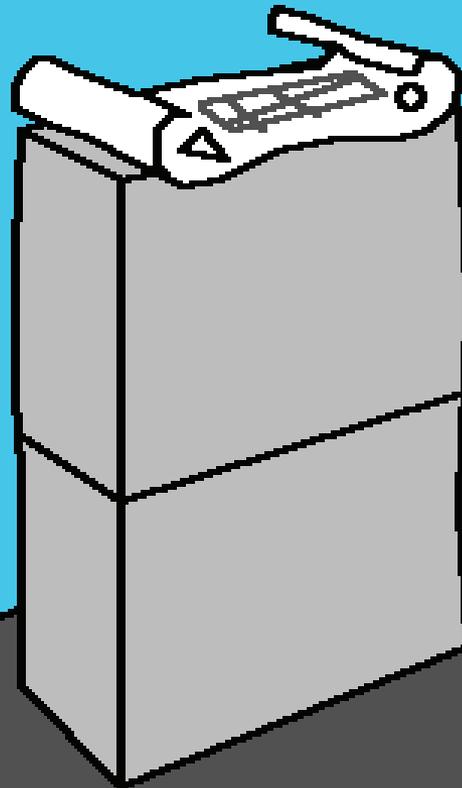
イスラエルの人々は、

かみ

れいはい

しん

神さまを礼拝する神でんがあ  
りませんでした。



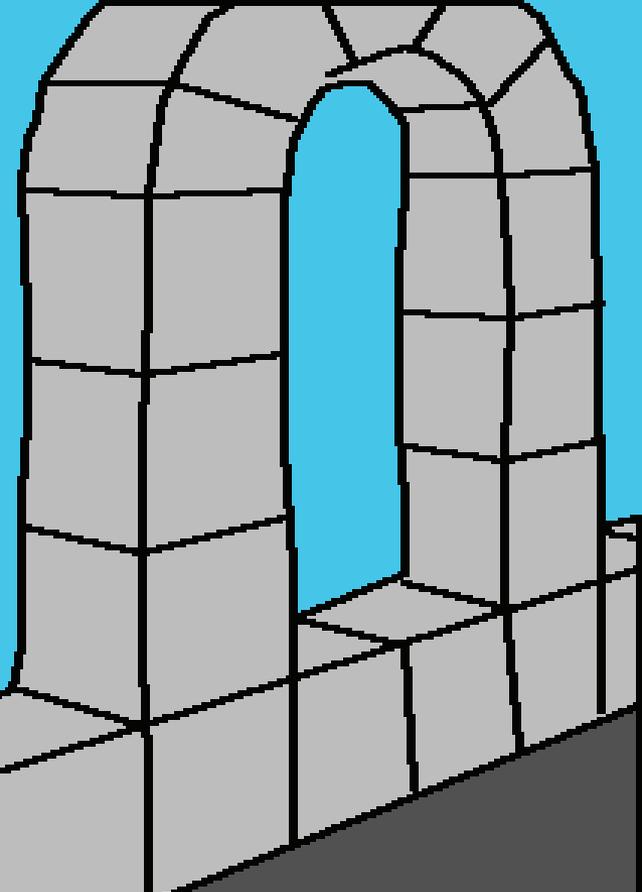
まえに、

しん

ダビデが神でんをた  
てようとしたことがあ  
りましたね。



そのとき、<sup>かみ</sup>神さまはこう言われま  
した。「ダビデ、あなたの<sup>い</sup>むすこ  
がわたしの家をたてるだろう。」  
<sup>いえ</sup>ってね。そこで今、ダビデのむす  
こソロモンは、



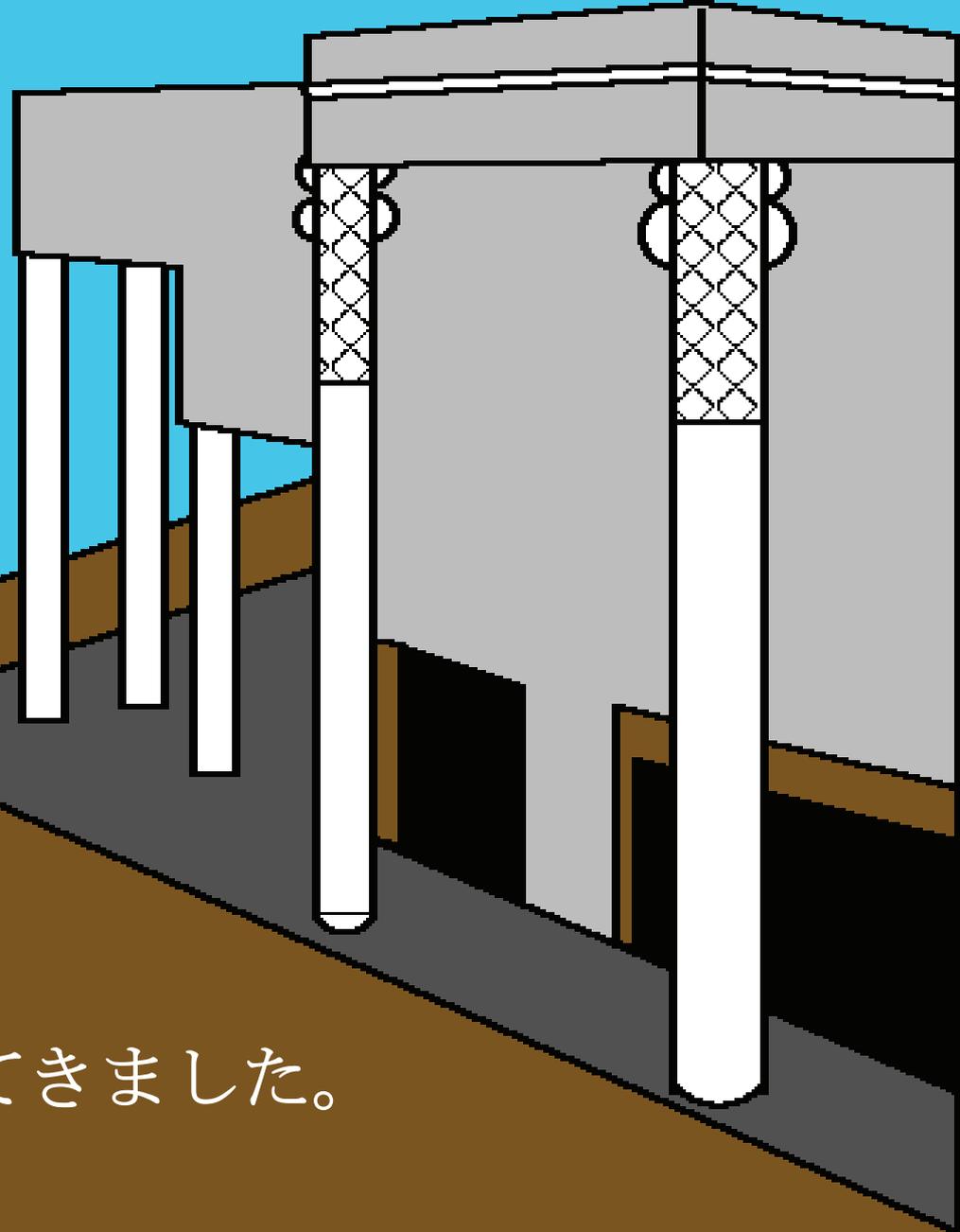
エルサレムに  
<sup>しん</sup>  
すばらしい神でんをた  
てはじめましたよ。



<sup>しん</sup>  
その神でんをたてるのに、  
<sup>ねん</sup>  
なんと7年もかかった  
のです。でもやっと、  
できあがりしました。

<sup>しゅ</sup>  
ソロモンが主にそ  
<sup>しん</sup>  
の神で

<sup>き</sup>  
んをささげると聞いて、  
<sup>ひと</sup>  
たくさんの人があつまってきました。



はじめに、みんなで心  
このころ  
をあわせてお祈りしま  
いの  
した。それから王さま  
おう  
ひとびと  
も人々も、

よろこん  
でたくさん  
もの  
のささげ物をし、  
しゅうかん  
2週間ものあいだ、  
ごちそうをいただきましたよ。



かみ

このあと、神さまはまた、  
ソロモンのところにあら  
われてやくそくしてくだ  
さいました。「ソロモンよ、  
あなたとイス

たみ

ラエルの民を

しゆく

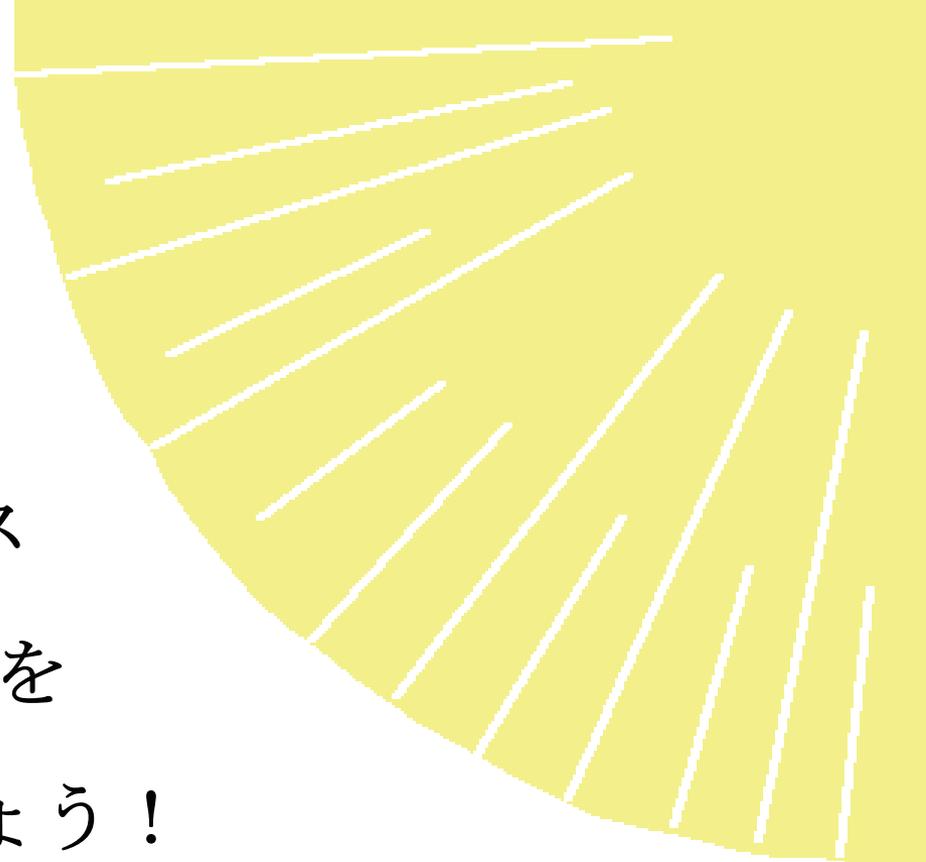
祝ふくしょう！

あなたたちが、

しゆ

主にしたがっているあ

いだはいつまでも。」



ひとひと

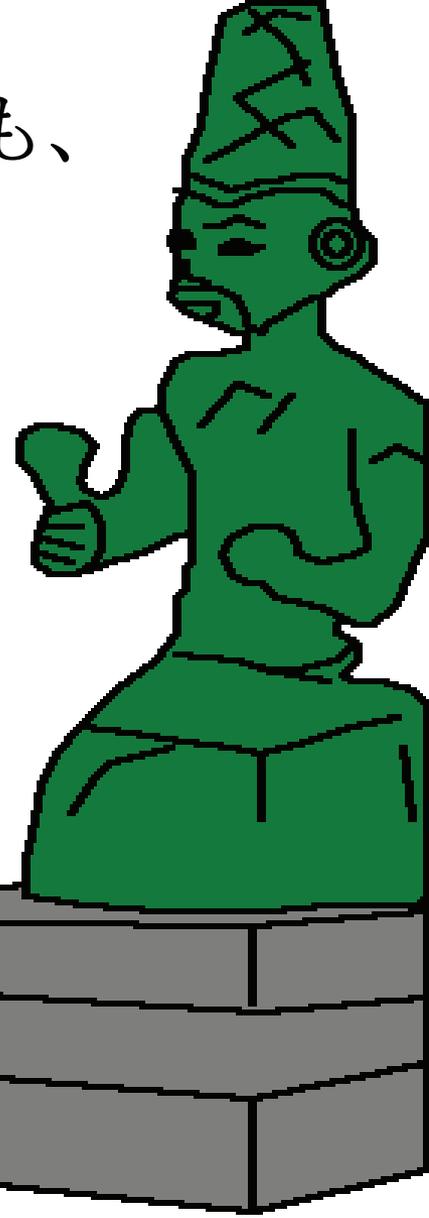
ところが、かなしいことにソロモンも人々も、  
かみ

いつのまにか神さまにしたがうことを、  
すっかりわすれてしまったのです。

おう

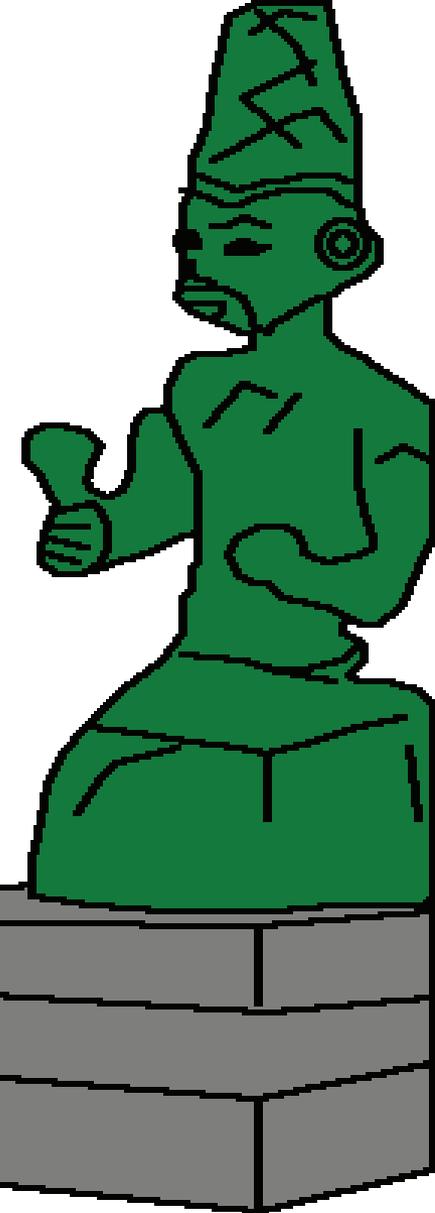
おんな ひと

ソロモン王は、たくさんの女の人とけっ  
こんしました。でもね、その女の人たちは、  
神さまがよくないと言わ  
れていた人たちでした。



かみ しん  
神さまを信じていないおくさんたちは、  
こころ ぞう しん か  
ソロモンの心を、ぐう像を信じるように変  
こころ  
えてしまったのです。ソロモンの心は、  
かみ しゅ  
かれの神さまである主からはなれてしまい、  
したがわなくなっていました。

とう  
お父さんダビデは、いつも  
しゅ  
主だけを信じ  
ていたので  
すけれ  
どね。



ソロモンが、

かみ

神さまからすっかりはなれているときのことです。

ソロモンのめしつかいの1人にヤロ

ひと

ブアムという人がいました。



このヤロブアムにふしぎなことがおこりましたよ。

あるよげん者<sup>しゃ</sup>が、かれのところ<sup>い</sup>にあらわれて、  
こんなことを言ったのです。「ヤロブアム、神さま<sup>かみ</sup>は、  
ソロモンの国<sup>くに</sup>を12の部<sup>ぶ</sup>ぞくに  
わ  
分けようとされている。



そのうちの10の部ぶぞくは、あなたのものとなるだろ  
う。」それを聞いたヤロブアム、大急きぎでエジプトへ  
にげましたよ。どうしてって、もし自分おおいそがここにいた  
ら、ソロモンにころじぶんされてしま  
うだおもらうと思ったからです。



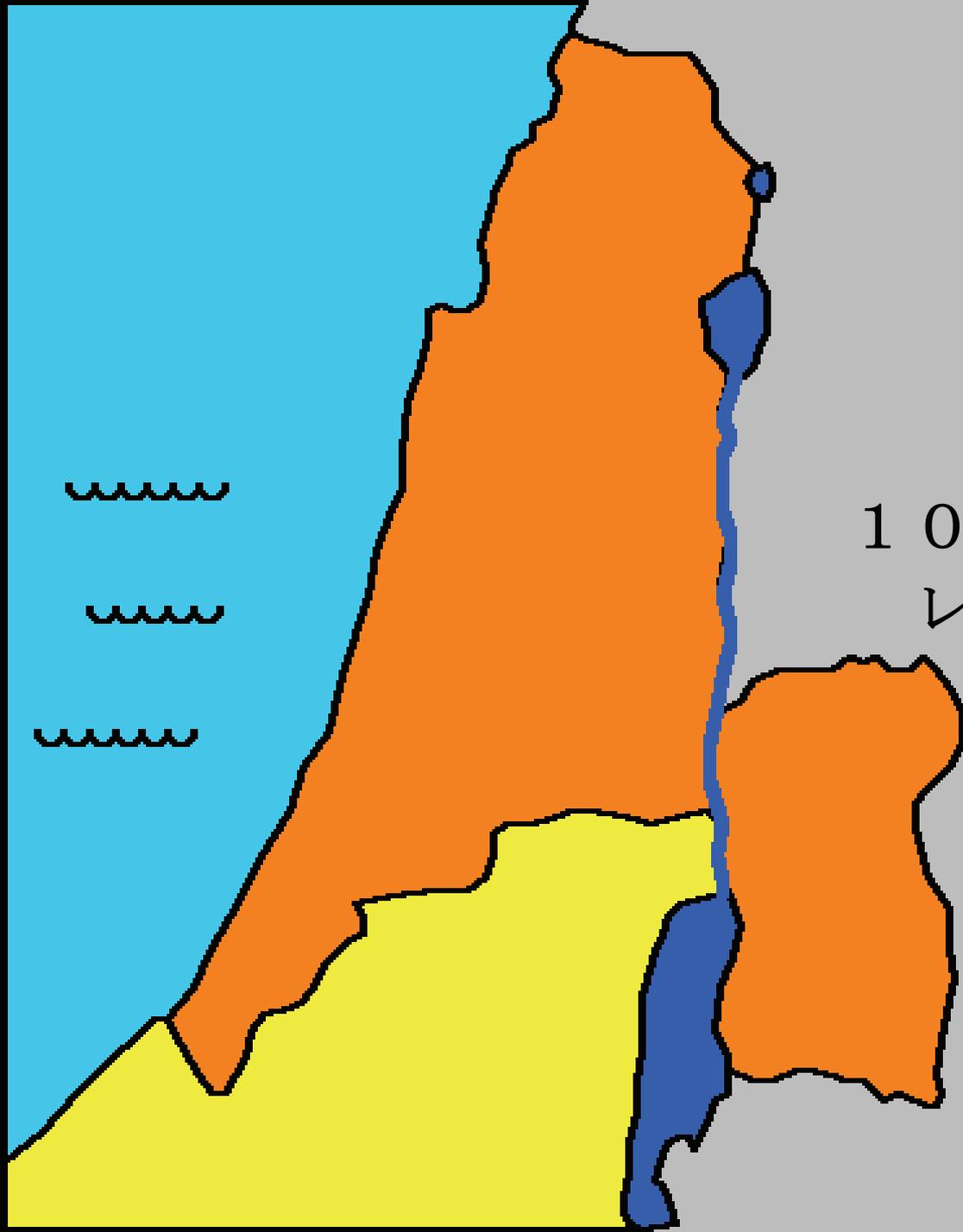


とうとう、ソロモンが  
し  
死んでしまいました。

そしてつぎに、  
ソロモンのむすこレハブア  
おう  
ムが王さまになりましたよ。

でもね、かれはソロモンが  
やったことより、  
もつともつと悪い  
ことをしました。





ひとびと

人々からたくさん

きん と

ぜい金を取って、

くるしめたのです。

そこで、

ぶ

ひと

10の部ぞくの人たちは、

レハブアムにそむいて、

くに

あたらしい国を

つくりました。





そして、リーダーに、あのエジプトへにげたヤロブアムがえらばれたのですよ。

こうしてソロモンのすくわばらしい国は、2つに分けられてしまったのです。

そう、神さまは、かみものしたがわなない者を、しゆくけっして祝ふくならさらないのですね。



おう  
かしこい王さま、ソロモン

かみ み せいしよ しる  
神さまの御ことば、聖書に記されているおはなしです。

れつおうきじょう しょう しょう  
列王記上 1 章 -12 章

み ひら ひかり あた  
あなたの御ことばが開かれると、光が与えられます。

しへん  
詩篇 119:130



おわり



せいしょものがたり わたし かみ  
この聖書物語は、私たちをつくってくださったすばらしい神さまに  
かみ かみ  
ついて、おはなししています。神さまは、あなたが、神さまのことを  
おも  
しってほしいと、思っています。

かみ わたし  
神さまは、私たちが、よくないことをしてしまったことを、しってい  
かみ つみ つみ  
らっしゃいます。それを、神さまは、罪とよばれています。その罪の  
し かみ あい  
むくい、死です。けれども、神さまは、あなたをととても愛してい  
ひとり こ よ おく  
らっしゃいますので、ただ一人のみ子イエスさまを、この世に送って  
つみ じゅうじかじょう な  
くださいました。そしてあなたの罪のために、十字架上で亡くなられ  
てんごく  
たのです。けれどもそれから、イエスさまはよみがえられ、天国のい  
しん  
えへ、もどられたのですね。もし、あなたがイエスさまを信じ、ゆる  
してくださいとおねがいするなら、イエスさまは、ゆるしてください  
いま ところ き なか  
ます！イエスさまは、今、あなたの所へ来て、あなたのこころの中に  
す い  
住んでくださいます。そして、いつまでもイエスさまといっしょに生  
きるができますよ。



もし、あなたが、これがほんとうだと信じるなら、神さまにこう言っ  
てください。

愛する神さま、私は、あなたが神さまと信じます。あなたは人とな  
り、私たちの罪のために亡くなってくださいました。そして、よみ  
がえって、いま生きて

いらっしゃいます。どうか、私のところの中に来て、罪をゆるして  
ください。それで、私は今、あたらしい命をいただけます。そし  
て、いつか、あなたの所へ行き、いつまでもあなたといっしょにい  
ることができるのです。あなたにしたがえますよう、あなたの子とし  
て生きることができますよう、たすけてください。アーメン

まいにち、聖書をよみ、神さまとおはなししましょう！ ヨハネによ

る福音書 3 : 16

